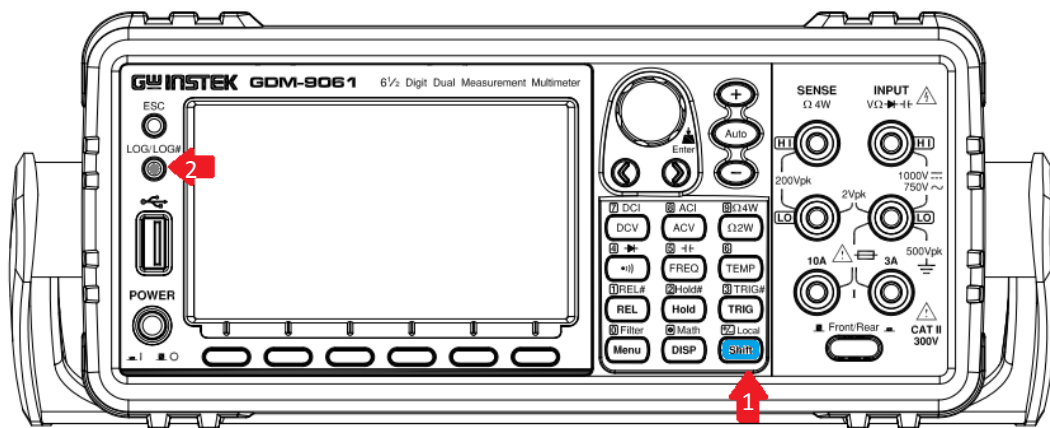


GDM-906X アプリケーション資料

スクリーンショット&データログ機能

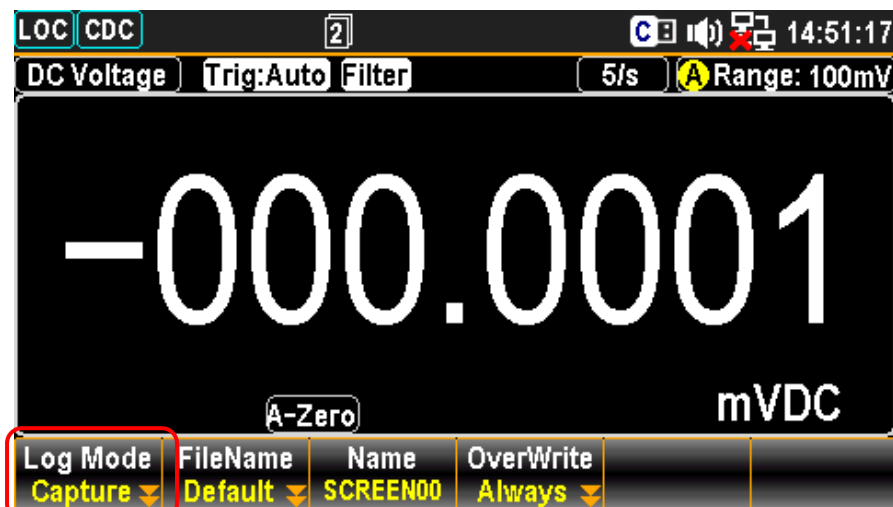
本資料では、スクリーンショット&データログ機能についての応用操作について説明します。
GDM-906X の取扱い説明書も合わせて参照ください。

- 例 1 データログ機能：測定値の記録 Recent
- 例 2 データログ機能：測定値の記録 Sample Count



LOG / LOG# ボタンの説明

- LOG/LOG#
1. を押すと、フロントパネルに挿入した USB メモリへの保存動作が始まります。画面または測定値を保存することが出来ます。
 2. + を押すと、ログモードの設定メニューに入ります。



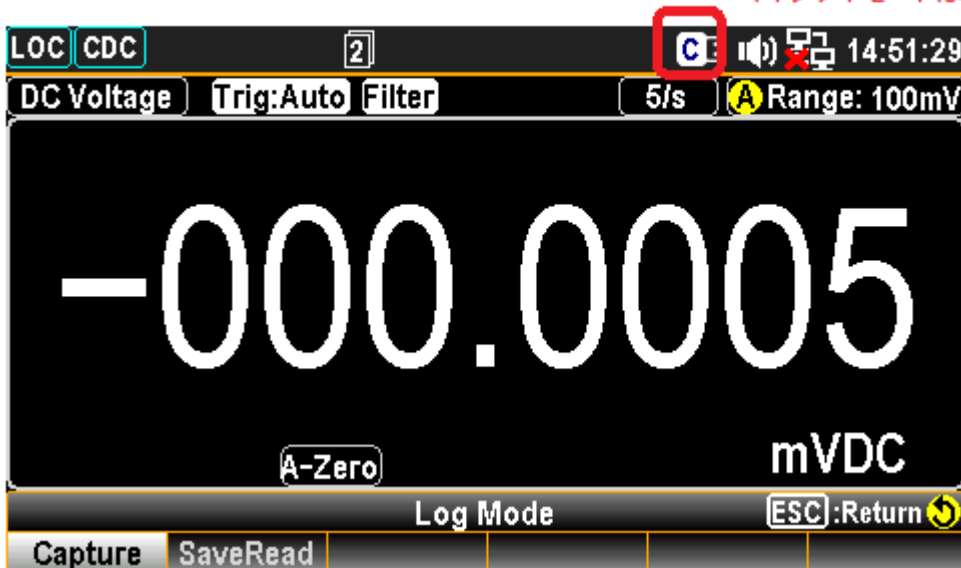
[F1] ログモードの選択：

[F1] Capture：画面キャプチャモード

[F2] SaveRead：測定値記録モード

Capture : 画面キャプチャモード

キャプチャモードは「C」になります




画面キャプチャモードでは  ボタンを押して、現在の画面表示を保存します。

SaveRead : 測定値記録モード

測定値記録モードは「S」になります



測定値記録モードでは  ボタンを押して、現在のサンプリング・バッファにある測定値を保存します。測定機能を切り替えると、サンプリング・バッファはクリアされます。
※測定を実施しながら USB メモリへ値を書き込むことはできません。

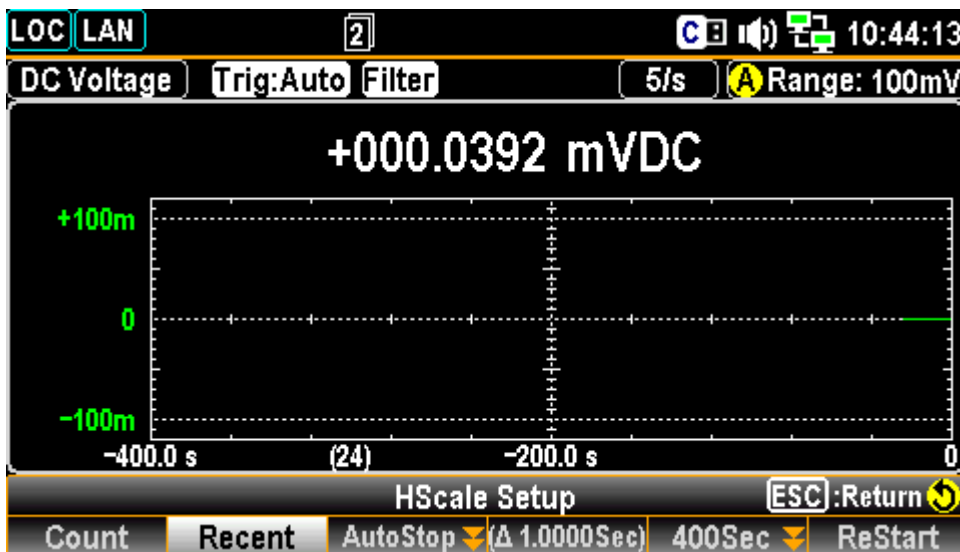
GDM-9060	サンプリング・バッファ	1万 reading
GDM-9061	サンプリング・バッファ	10万 reading



- F5 SaveRead 測定値記録モードのみ : Count / Recent
 - F1 Count : 総カウント数で記録
 - F2 Recent: 一定間隔で記録

例 1 測定値記録モード : Recent を使用して、1 秒間隔で記録

- ① Math
1. DISP キーを押します。
 2. F2 キーで、Display を選択します。
 3. F3 キーを押して、TrendChart に切り替えます。
 4. F4 キーで、HScale を選択します。
 5. F2 キーで、Recent を選択します。

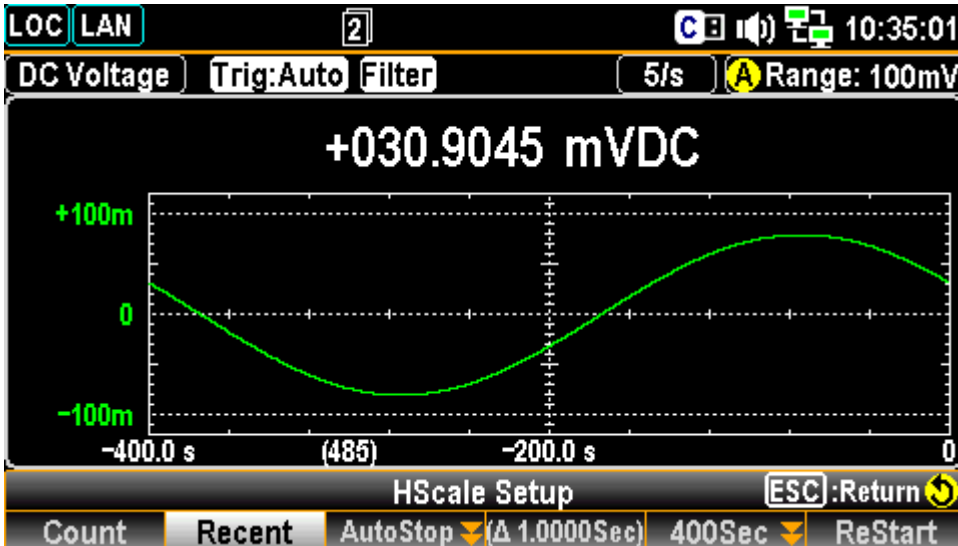


6. F5 キーを押してトレンドチャートの横軸時間を設定します。(測定ストップ時は設定不可)
初期値は 400 秒で、記録間隔は 1 秒です。
測定値記録モードでは、この時間を使用し記録が行われます。
F4 位置の Δ***が、設定されている時間間隔です。

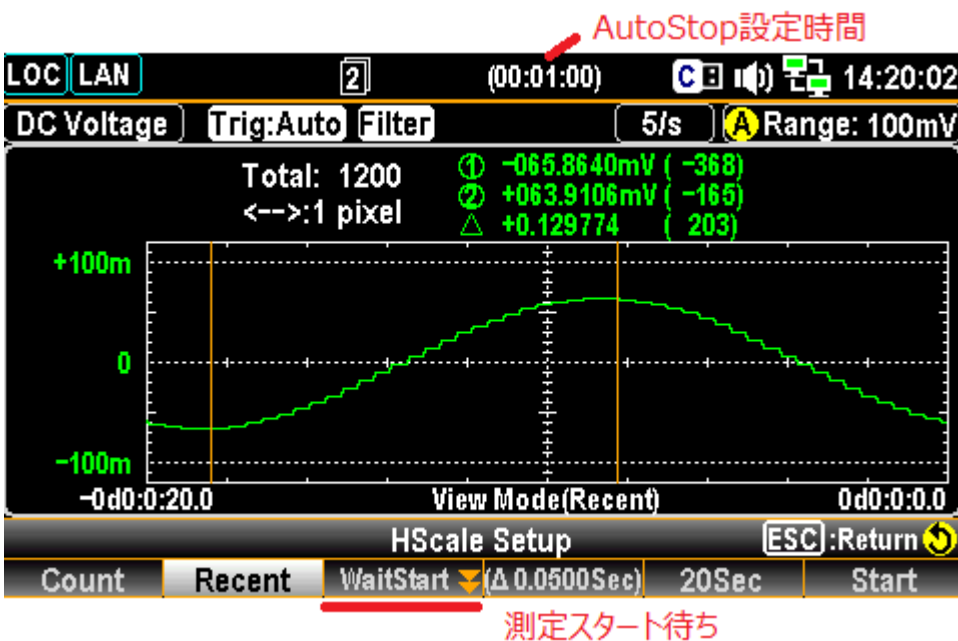
トレンドチャート機能では、測定回数 400 カウント分が画面表示されますので、その時間を設定することで測定値記録の時間間隔を設定します。
7. ロータリノブやキーを使用して F5 を 800 秒に変更すると、記録間隔は 2 秒になります。
8. 値を設定した際は、F6 キー ENTER を押し、決定します。
9. F6 キー ReStart を押すと、記録が再スタートします。

※時間間隔 Δ^{***} は、マルチメータのリフレッシュレートより長い必要があります。リフレッシュレートより短い時間間隔の場合は、測定値は更新されていない為、前回と同じ値が記録されます。
 (リフレッシュレートの設定時間適用は、Auto-Zero を OFF にする必要があります)


時間間隔 Δ^{***} > リフレッシュレート



10. AutoStop 機能 : **F3** キーで時間設定すると、N分後に自動的に停止します。(N : 1~9999)



11. **F6** キー Start を押すと、測定が始まり、時間が経過したら自動的に停止します。

LOG/LOG#
 12. USB メモリを挿入し、 ボタンを押すとサンプリング・バッファにある測定値データがメモリに保存されます。ファイル名は DATARxxx.CSV となります。

	A	B	C	D
1	Start: 2019/01/23 15:35:12			
2	End: 2019/01/23 15:35:45			
3	Interval:1.0000Sec			
4	DC Voltage			
5	5.56E-05			
6	5.55E-05			
7	5.54E-05			
8	5.60E-05			
9	4.96E-05			
10	6.21E-05			
11	4.80E-05			

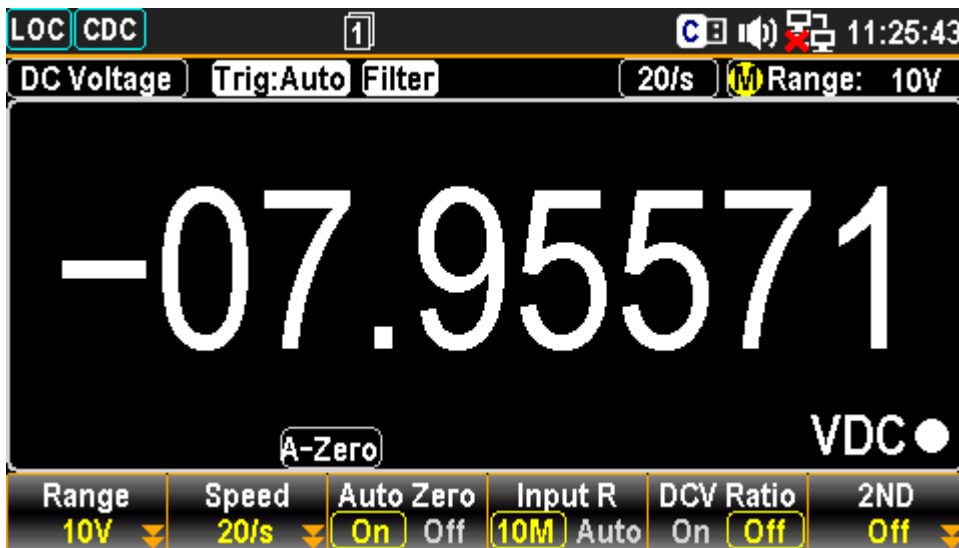
開始時間/終了時間/インターバル時間/測定機能/測定値

例 2 測定値記録モード：SAMPLE COUNT を使用して 1 分間の値を記録する

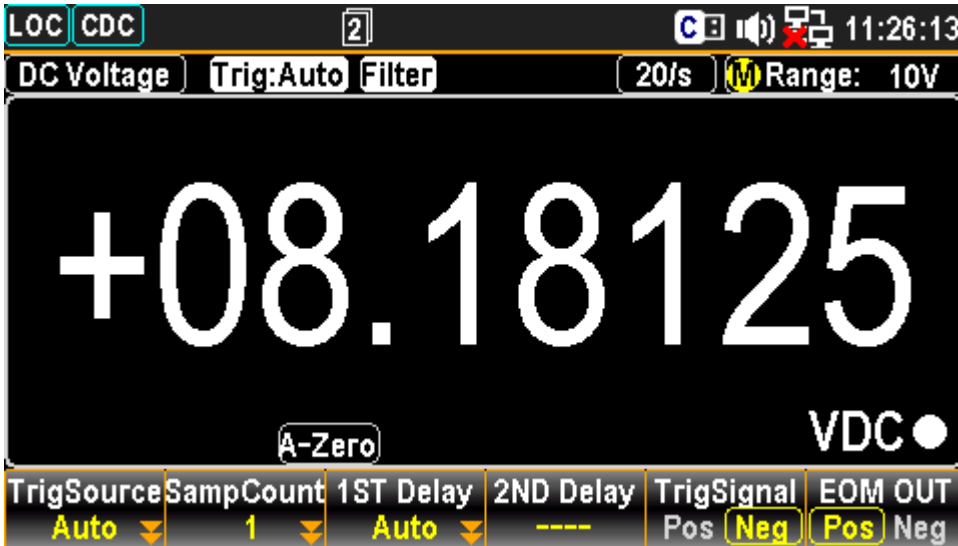
DCV、リフレッシュレート:20/S、で 1 分間の測定値記録の例。

(AutoZero : OFF とする必要があります。ON の場合はレートが 2 倍の長さとなります)

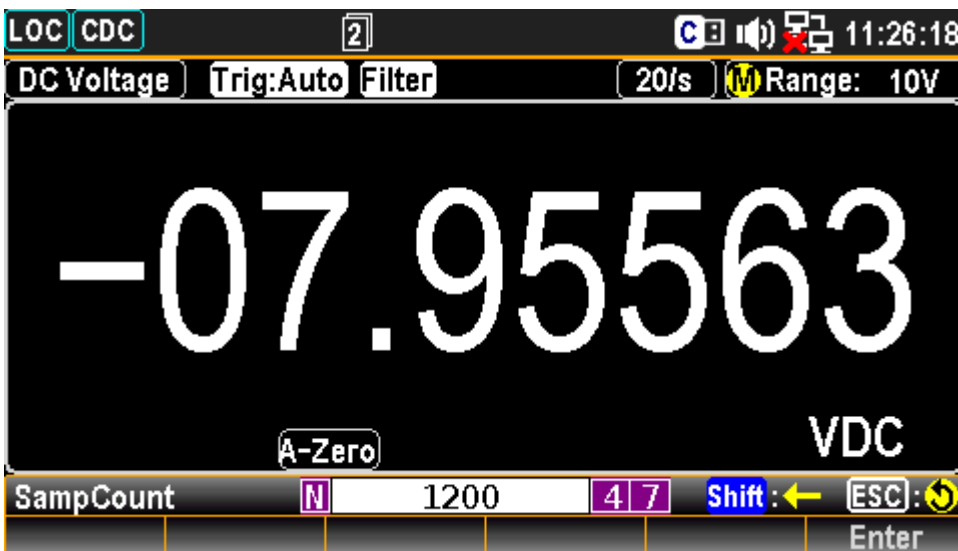
$$20 / s \times 60 s = \text{サンプル数 } 1200$$



1. **Local** + **TRIG#** を押して、トリガ設定メニュー Trig#に入ります。
2. **F2** キーで、Samp Count を選択します。

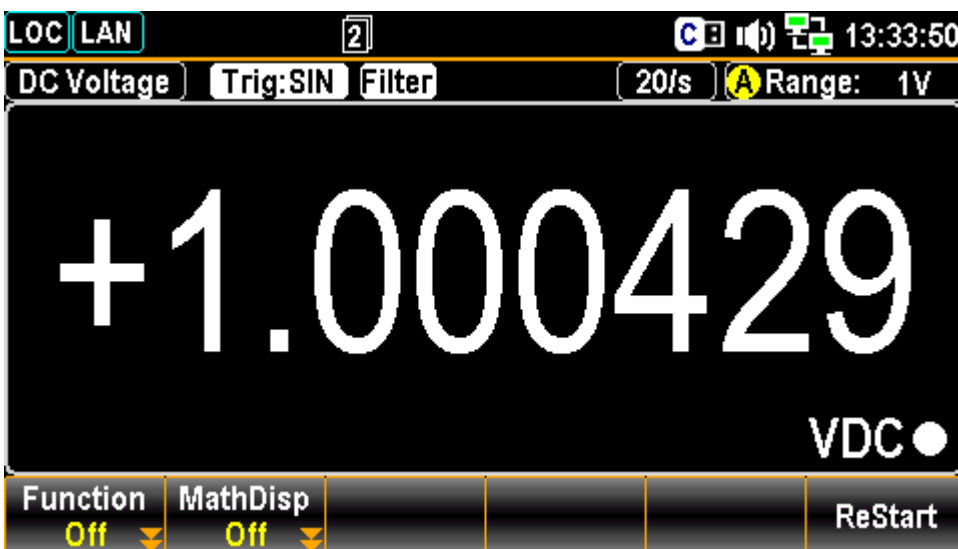


3. ノブまたは数値キーで値を設定します。SampCount = 1200

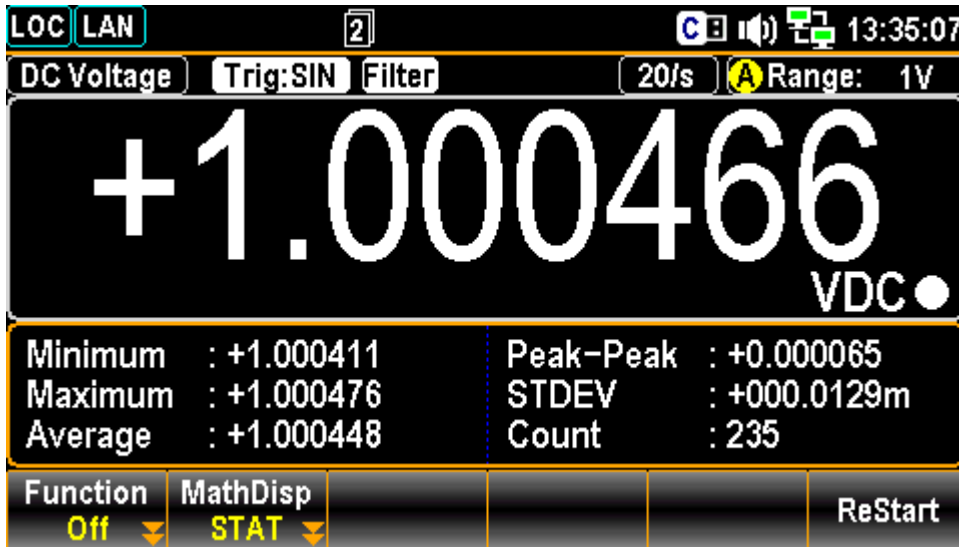


4. **TRIG** キーを押して、シングルトリガモードに入ります。

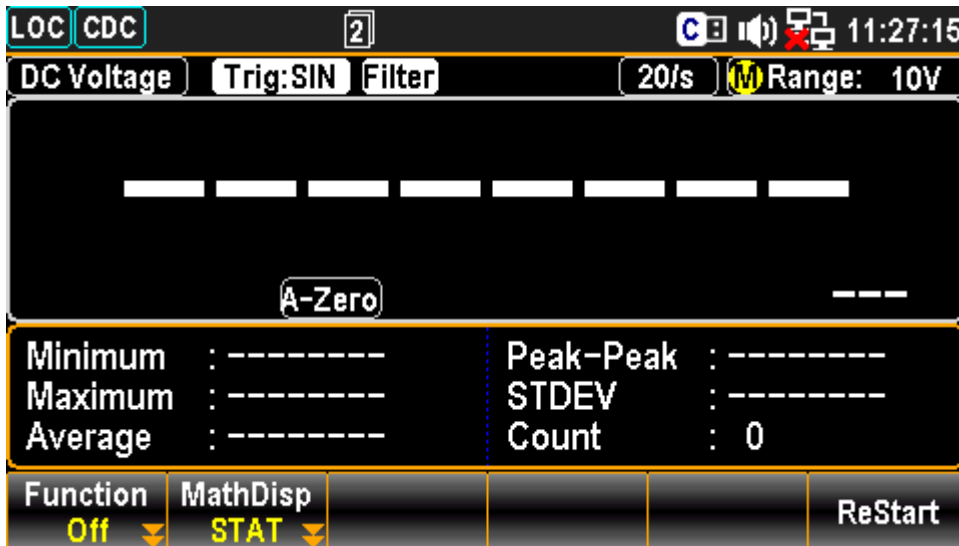
5. **Local** / **Math** / **Shift** + **DISP** キーを押して Math モードに入り、**F2** キーを押して MathDisp STAT を ON します。



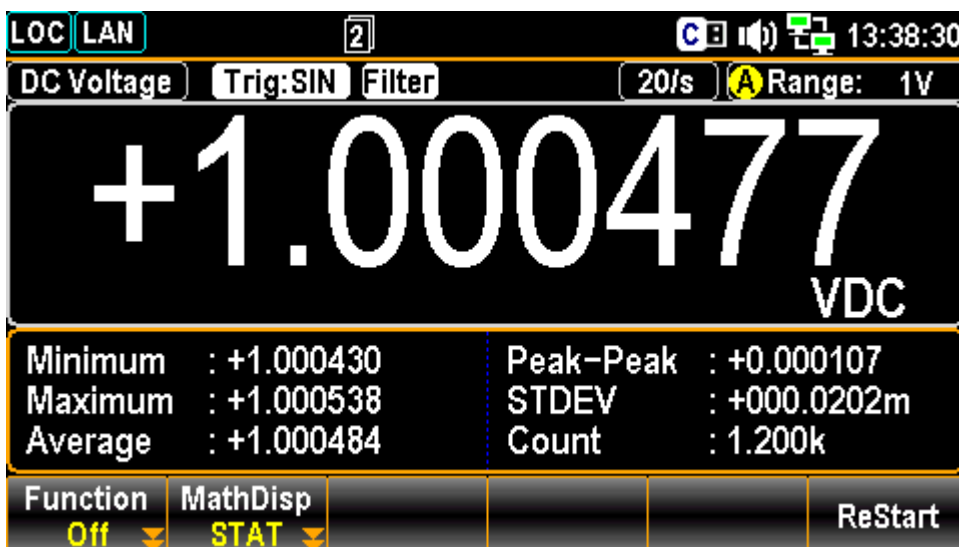
6 MathDisp STAT ON 状態



7. [F6] キー ReStart を押すと、バッファがクリアされます。




8. ^③TRIG# [TRIG] キーを押すと、マルチメータは測定を開始し、Count=1200 に達すると自動で停止します。



9. ReStart がそのまま表示されている状態で、もう一度 ^{③ TRIG#} **TRIG** キーを押すと、測定が継続されます。
Count=2400

10. **F6** キー ReStart を押すとバッファがクリアされ、^{③ TRIG#} **TRIG** キーを押すと測定が再び始まります。
Count=1200

11. USB メモリを挿入し、^{LOG/LOG#}  ボタンを押すとサンプリング・バッファにある測定値データがメモリに保存されます。ファイル名は DATAcxxx.CSV となります。

保存の際、LOG#設定は次の様にしておきます。



Count モード

	A	B	C	D	E	F
1	DC Voltage					
2	1.00E+00					
3	1.00E+00					
4	1.00E+00					
5	1.00E+00					
6	1.00E+00					
7	1.00E+00					
8	1.00E+00					
9	1.00E+00					
10	1.00E+00					
11	1.00E+00					
12	1.00E+00					
13	1.00E+00					
14	1.00E+00					